

# 第24期日本学術会議 第3回環境学委員会

## 議事録

日 時: 平成30年10月5日(金) 14:00~16:00

場 所: 日本学術会議 5階 5-C(1)会議室

出席者: 石川義孝、岡田真美子、西條辰義、高村ゆかり、石塚真由美、武内和彦、丹下健、古谷研、浅見真理、阿尻雅文、高橋桂子、春山成子、大政謙次、花木啓祐、福士謙介、鷺谷いづみ、渡辺知保(名簿順)

欠席者: 秋葉澄伯、南條正巳、磯部雅彦、田辺新一、中村尚、石川幹子、蟹江憲史(名簿順)

事務局: 宮本直子

## 議 事

### 1. 前回議事録案の確認

### 2. 環境基本計画、環境施策関係の最近の動向

武内委員から、第五次環境基本計画の概要と、学術会議がかかわった2つのイベント(サイエンス20とG7アカデミック・サミット)について、報告があった。その後、この報告をめぐって意見交換が行われた。基本計画の意義や関連することとして、次のような指摘がなされた。

- ・国の政策として初めて、SDGsが環境基本計画の中に明記された。
- ・部局ごとの縦割りだけではなく、地域循環共生圏の発想を組み込み、6つの重点戦略として、①グリーンな経済システムの構築、②国土のストック、③持続可能な地域づくり、④健康で心豊かなくらし、⑤技術の開発・普及、⑥国際貢献、を謳っている。
- ・日本は、今年の海洋汚染マイクロプラスチックに関する条約に日程的理由から署名せず、イメージダウンしてしまった。来年G20で主要テーマとして取り上げられるため、それに先駆けS20で共同声明採択を行う。
- ・環境基本計画は英訳され、日本としても海外向けにもアピールする方針。
- ・世界保健機関の国際保健規則に基づく外部評価で、日本の保健や化学物質管理体制に対する英語資料が不足していた。結果的には当時最高点を得られたが、英語のアピールは重要。
- ・第6期科学技術計画策定でも、文科省が環境・エネルギー政策分野のインプットを必要としている段階。
- ・野生生物の管理、地方創生、環境の情報収集、自治体の活用、地方における情報技術の活用や適応策の重要性など、他分野とも関連する。
- ・経団連も、SDGs、Society5.0などとの関係性は重視している。

### 3. 各分科会からの活動状況ご報告

FE・WCRP 分科会、環境科学分科会、環境リスク分科会、環境思想・環境教育分科会、環境政策・環境計画分科会、都市と自然と環境分科会、自然環境保全再生分科会、フューチャー・デザイン分科会、地球環境変化の人的側面（HD）分科会、長寿・低酸素化分科会から、活動状況の報告があり、その後質疑が行われた。

### 4. 1月7日の全体会議及び各分科会に関するお打ち合わせ

高村委員長から、前回の委員会での議論が紹介されるとともに、次回2019年1月7日の会合の持ち方やテーマについて提案された。これをめぐって、各分科会の準備状況が紹介されるとともに、会合の具体的な目標や内容について意見交換が行われ、次のような意見が出た。

- ・政策の動向を知ることにも有用。
- ・現代的な要請を踏まえた、広い範囲を視野に入れた環境学の再定義が必要な時期が来ているのではないか。
- ・貧困などを含めた人文・社会科学との連携、経済学における将来の環境の考慮、理学の活用など、新しい環境学の構築につながる提言を公表するのが望ましい。
- ・環境学委員会では、22期に俯瞰図、23期に夢ロードマップを作成している。これらの成果を踏まえ、展開することも重要。
- ・フューチャー・デザイン分科会では、長期的な意思決定を現代の人間が行うことについて、新しい手法を提案している。
- ・幹事会が24期で改定を考えている「日本の展望：学術からの提言2010」とも関係する。

以上を踏まえ、1月7日には、午前に分科会活動の紹介、午後前半に環境学全般に関わる講演会、午後後半に各分科会、といった会合とする方向を考える。ただし、分科会は参加可能などところのみでやむを得ない。講演会は、講堂か会議室ぶち抜きで開催することや動画配信も検討する。講演会の演者の候補者についても、検討した。

### 5. 今後の活動

議事の4で、今後の活動の予定の検討は、ほぼカバーされた。

来年4月の総会開催時に、環境学委員会を開催の予定。4月26日となる可能性が大であるが、日程調整をする予定である。

### 6. その他

各分科会の活動を紹介するホームページについて原稿作成が行われて

おり、事務局よりその掲載は10月末頃を予定しているとのことであった。

議事録の確定は委員間でメールで回覧のうえ、修正等は委員長一任することが確認された。